

生命に気づく描画表現活動の研究

小田原短期大学

通信教育サポートセンター（大阪）

山西 多加

本研究の目的

幼児教育等での描画表現活動における

「生命尊重」の資質・能力を育む

具体的な援助を探求

研究の方法

2017年～2022年度 A市B園実施

「スズメを題材にした描画表現活動」（4歳児）

「園飼育のカメを題材にした描画表現活動」（5歳児）

援助の考察

「スズメを題材にした描画表現活動」 活動のねらいと援助

実施年度	ねらい	援助に使用した教材
2017	身近な生き物に親しみ,気づいたことやイメージを自分なりに表現して楽しむ	「生態写真(卵,雛,巣,食性,交配関連,水・砂・雪浴び)」,絵本「こすずめのぼうけん(福音館書店1977年)」,実践者による作例
2018	同上	「生態写真(卵,雛,巣,食性,交配関連,水・砂・雪浴び)」,絵本『こすずめのぼうけん』,実践者による作例, <u>スズメのペープサート</u>
2019	コロナ禍記録なし	
2020	身近な生き物の生命に気づき,気づいたことやイメージしたことを自分なりに表現して楽しむ	「生態写真(卵,雛,巣,食性,交配関連,水・砂・雪浴び)」,実践者による作例, <u>スズメのペープサート</u> , <u>実践者制作紙芝居『スズメのかぞく』</u>
2021	同上	同上
2022	同上	同上

ねらいに「生命」を含め、幼児がスズメを傍に感じられるよう、

ペープサート(2018~)、実践者制作紙芝居(2020~)を使用

「スズメを題材にした描画表現活動」教材



実践者制作のペープサート

「スズメを題材にした描画表現活動」教材の一部



実践者制作の紙芝居「スズメのかぞく」

左から「懸命に生きるヒナ」

「親が子に水浴びを教える」

「きょうだいで桜のジュース屋さんに行く」

「巣が壊されるのではないかと怒る母スズメ」

「スズメを題材にした描画表現活動」援助の考察

- ・ スズメは、活動後も継続して観察が期待できる。
- ・ ペープサートを用いて、実践者は幼児と語り合える。
また、表現の受容ができる。
- ・ 幼児は「スズメの家・卵・子・親」「スズメと関わる幼児自身」を表し、活動後、スズメを見つけたことを、実践者に報告する。

「園飼育のカメを題材にした描画表現活動」 活動のねらいと援助

実施年度	ねらい	援助に使用した教材
2018	身近な生き物に親しみ、気づいたことやイメージを自分なりに表現して楽しむ	「生態写真（産卵、子亀、天敵、食性、泳ぐカメ、ひなたぼっこするカメ、カメの棲む山・川）」、絵本「おおきいかめ、ちいさいかめ（福音館書店2008）」、カメ実物（フタ有水槽内）、クサガメのペープサート、保育者による作例
2019	身近な生き物の生命に気づき、気づいたことやイメージしたことを自分なりに表現して楽しむ	「生態写真（産卵、子亀、天敵、食性、泳ぐカメ、ひなたぼっこするカメ、カメの棲む山・川）」、カメ実物（フタなし水槽内）、 <u>実践者制作紙芝居『ほしかめちゃんのねがい』</u> 、保育者による作例
2020	同上	同上
2021	同上	「生態写真（産卵、子亀、天敵、食性、泳ぐカメ、ひなたぼっこするカメ、カメの棲む山・川）」、カメ実物（ <u>番重574×388×73mm内</u> ）、 <u>実践者制作紙芝居『ほしかめちゃんのねがい』</u> 、保育者による作例
2022	同上	同上
2023	同上	同上

ねらいに「生命」を含め、カメの実態を伝えるため、

実践者制作紙芝居（2019～）、番重（2021～）を使用

「園飼育のカメを題材にした描画表現活動」教材の一部



実践者制作の紙芝居「ほしかめちゃんのねがい」
左から「お世話する先生と仲間を探しに行く」
「カメの食べ物で作られている駄菓子」
「アライグマが仲間を襲うことを知る」
「結婚して家族と泳ぐ」

「園飼育のカメを題材にした描画表現活動」援助の考察

- ・ 幼児は、紙芝居により「飼育下の毎日の世話」「カメが生きる自然」「自然界のカメの現状と希望」に触れることができる。
- ・ 幼児は、番重内で壁を越えようと立ち上がり、首を伸ばすカメの動きを間近に見ることができる。
- ・ カメは、登降園時に観察できる。活動後継続した観察が期待できる。
- ・ 「触らない・驚かせない」行動が、同じ場に展示する生き物へ援用される可能性がある。

指導計画 カリキュラムと考察

4歳児	5歳児
4月「じぶんのかぞく」	4月「かぞくといっしょに」
10または2月「スズメのかぞく」	6月「ようちえんのカメさん」

幼児が自分の家族を思い起こし、「家族」について考えることは、
生き物に共感する基盤と捉える

描画指導と考察



表し方に戸惑う幼児のために実践者は「先生はこう考えたよ。みんなは？」という姿勢で作例を提示する。この際「ぬりひろげ」（はじめは豆のような形を塗り込み、だんだん広げて、円や楕円を表し、組み合わせる人や生き物などを表す方法）を採用する。強要しない。

まとめ：生命に気づく描画表現活動

活動を支える援助

- ・ 幼児に身近な生き物を題材に見出す
- ・ 題材に取り上げる生き物の生態や実態を伝える
- ・ 幼児が生き物に共感し、思いが表現できるよう、生き物と関われる環境を設ける。表現方法を支える。
- ・ 幼児が生き物について考える表現を認め、伝える。

今後の課題

生き物への共感を支えるため、
題材にとりあげた生き物の「身体」による表現を
総合的に活動に組み入れる

生命に気づく生命に気づく描画表現活動の研究

ご清覧ありがとうございました